

展示作品の解説

藤井 醇「昆虫生態写真展」
(川中島地区住民自治協議会・川中島町有線放送共催)

ナナホシキンカメムシ



ハンミョウ



オオゴマダラ蛹



ジンガサハムシ



アカギカメムシ



宝石

昆虫の中には宝石のように美しいものが数多く存在します。

しかし、その目を持って見ないと見えないものです。右上のハンミョウ、真ん中のジンガサハムシはすぐ身近にいる昆虫ですが、「こんな綺麗な虫、どこにいるんですか」とよく訊かれます。

カメムシ二種は何れも沖縄、八重山地方にしかいませんが、カメムシの仲間は美しいものが多く、身近にも美しい種が見られます。

左下の蛹はオオゴマダラチョウの蛹です。金細工のように見えますね。

この蛹から生まれた蝶の写真も会場に展示してあります。

カメムシの脱皮

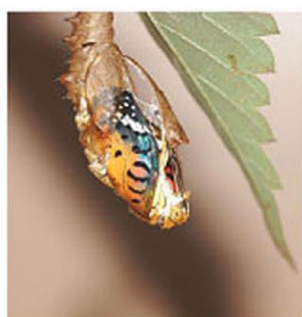


カブトムシ羽化



羽化 脱皮

ツマグロヒョウモン羽化



アブラゼミ羽化



カマキリの脱皮



昆虫には、卵から孵化した時から親と同じような形をしていて、脱皮を繰り返し成長するもの

(不完全変態)と、幼虫が、親とは似ても似つかぬ形をしていて、蛹を経て、成虫になるもの(完全変態)があります。そんな虫たちの脱皮や羽化の瞬間を捉えたものです。

上のカメムシは脱皮の最中、右下のカマキリは脱皮した直後です。何れもまだ成虫には、なっていません。未だ脱皮を繰り返します。

蝶、カブトムシ、蟬は羽化、つまり最後の脱皮とも云えます。

劇的な変化の瞬間です。

イシガキチョウ



カバマダラ



親

イシガキチョウの幼虫



カバマダラの幼虫



子

蝶と、その幼虫を上下に展示してみました。

知らない人が見たらとてもこれが親子の姿だと信ずることはできないでしょう。

昆虫が変態することは、どなたでもご存知のことですが、中でも蝶は格別、華麗な変身を見せてくれます。

イシガキチョウの幼虫は頭に立派な角、身体にも肉角をもって敵を脅しているようですが、若令の時は目立たず何処にいるのか探すのが大変なくらいです。(擬態・保護色参照)

カバマダラは毒々しい色と臭いで敵から身を守っています。

アカスジカメムシ



ハサミムシ



交尾

ナミテントウ



モンシロチョウ



アキアカネ



生き物にとって自己が生きてゆくことと、種族の保存が最も大きな目的です。

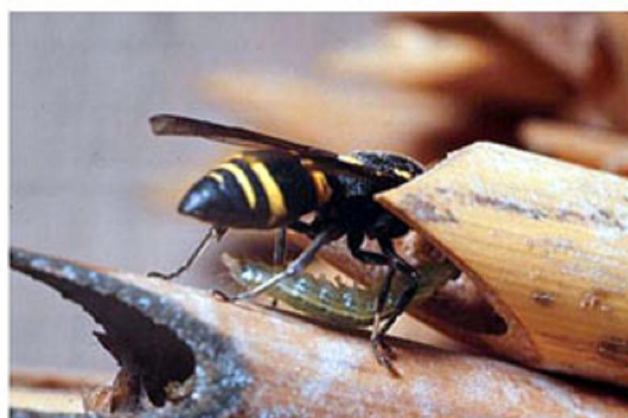
昆虫の繁殖行動もあらゆるところで目撃できます。トンボ、蝶、カメムシなど誰もがよく見かけているはずです。

三匹重なったナミテントウはちょっとユーモラスな光景、ツリフネソウの花の中ではハサミムシ、なかなか彼らも隅に置けません。

オスは交尾がすめばお役ご免で消えていきます

メスはその後、産卵という大事なつとめがあるのでもう暫く生きています。中には幼虫を敵から守ったりする母親もいます。

狩人蜂



狩人蜂はファーブルの昆虫記にも登場しているのでその名はよく知られています。

しかし、実際に見た方は少ないでしょう。

ここに挙げた狩人蜂以外にも狩をする蜂が身近にたくさんいます。

狩人蜂は、ミツバチやスズメバチなどのように集団生活はしません。いずれも単独の生活をしていますが、クロアナバチは、単独生活なのですが、営巣地には、コロニーができています。そこでは狩って来たツユムシの奪い合いが起ることもあります。

スジグロチョウ



ベニモンアゲハ



キバネツノトンボ



キイトンボ



産卵

ちょっと気をつけてみていれば昆虫の産卵はよく見られます。

蝶は幼虫が食べる食草に産卵します。

トンボ類は写真のイトトンボのように水草の茎などにうむもの、水中へばら撒くように産むものがあります。

キバネツノトンボはウスバカゲロウの親戚です。細い木の枝にまとめて産みつけます。孵った幼虫はアブラムシなどをたべています。

産卵するところ、方法さまざまです。ボクトウガという蛾は飛びながら大空から、ばらばら産み落とすと言われてています。

毒

アオイラガ幼虫



ドクガ幼虫



トク刀



イラガ幼虫



アオカミギリモドキ



毒を持った昆虫はさほど多くはありませんが毛虫というだけで嫌われてしまう。

事実毒が無くても毛が皮膚に付いただけで湿疹になる人もある。しかしいずれにしても、湿疹、痒み程度で、生命にかかわるほどの事ではないから、それほど恐れることはありません。

写真の毒虫たちは、比較的身近にいるドクガの幼虫や成虫。イラガの幼虫など、何れもかぶれたり、多少の痛みでたいした被害はありません。毛虫などよりも、大きなスズメバチなどに注意しましょう。

オトシブミ

ルイスアシナガオトシブミ幼虫



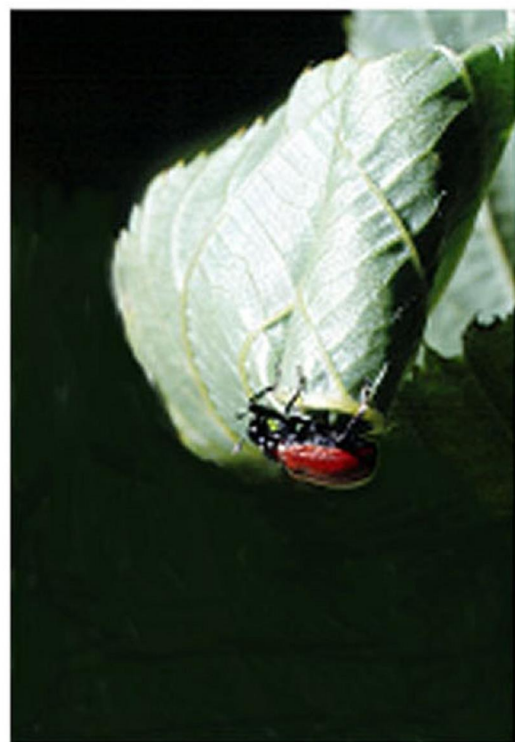
ルイスアシナガオトシブミの蛹



ルイスアシナガオトシブミ



オトシブミ揺籃造り



オトシブミ（落し文）

身近に5～6種のオトシブミがいますが、いずれも5～6ミリのちいさな、こうちゅうなので見過ごされています。種によってさまざまな木の葉を巧みに巻いて「揺籃」(ゆりかご)をつくります。中に産み付けられた卵から、孵化した幼虫は、揺籃そのものの内部を食べて成長、蛹を経て成虫になります。オトシブミの揺籃作りは5月～7月頃まで良くみられます。

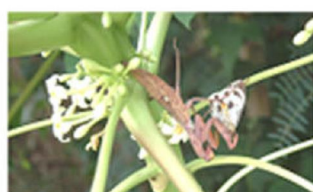
ハナグモ



食物連鎖

(自然界のバランス)

ハラビロカマキリ



ナナホシテントウ



シオヤアブ



キイロサナエ



花には、その蜜を求めて、ハナアブ、ハチ、蝶、蛾、など多くの虫たちが集まってきます。その虫たちを狙って、その他の肉食昆虫やクモが花の陰でじっと隠れて狙っています。トンボは飛びながら蝶やアブ、ハエなど、なんでも捕えてたべます。アブの中にもムシヒキアブ、シオヤアブなど肉食もいて、他の虫の体液を吸って生きています。

自然界では、昆虫同士、クモ、小動物、鳥などが、食ったり食われたり、複雑に絡み合っています。それを食物連鎖といっています。それで結果として程よいバランスが保たれているわけです。

ナミテントウ

孵化する幼虫



ナミテントウ



幼虫



蛹



テントウムシは洋の東西をとわず、親しまれています。欧米ではハッピービートル、或いはレディーバードとよばれています。

ベランダのエノ木の葉に産み付けられた卵が数日後に孵化し、幸運にもその瞬間が撮れました。なかなかユーモラスな情景です。

下段中央はしばらく後の幼虫の姿です。幼虫がアブラムシを食べてくれることはよく知られています。下段右が蛹。

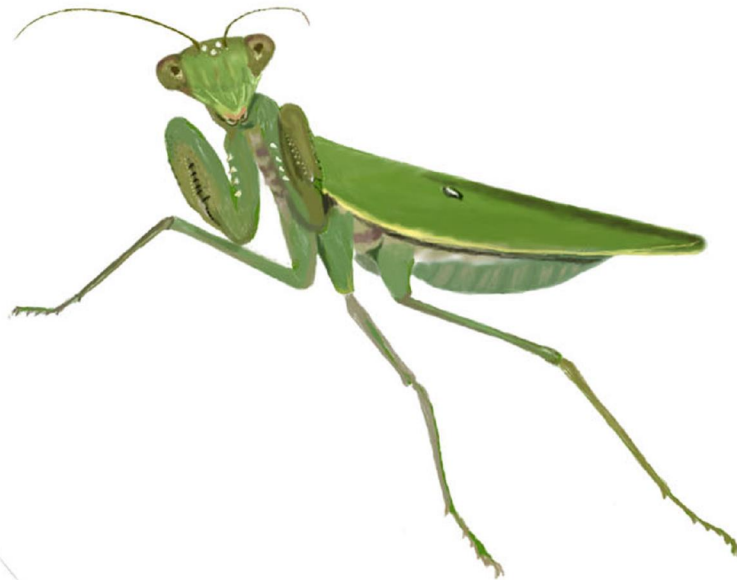
テントウムシの代表種、ナミテントウですが、この種は、斑紋にバラエティーがあり、二つ紋、四つ紋 19 紋、色彩も、さまざま、判別が厄介なテントウムシです。

いずれにしても、愛らしく、誰にも愛されているようです。

漢字では「天道虫」 「天道」は、おてんとうさま。つまり太陽です。

ご高覧有難うございました。
昆虫界を代表いたしまして
カマキリより厚く御礼申し上げます。

2009年8月吉日



ハラビロカマキリ *A. fujii*